

ホップ♪ ステップ♪ のとがわ

能登川地区まちづくり協議会

東佐生自治会夏まつり



7月28日(土) 住民255名が参加。
子ども会手作りの「子どもみこし」も参加し、自治会内を練り歩き。

第13回 堀切自治会ふれあい納涼祭



8月4日(土) 子どもビンゴ、ヨーヨー
つり、スーパーボールすくい、模擬店、
大道芸、大福引会などイベントがいっ
ぱい！約150世帯から350名が参加。

夏休みの思い出の1ページを絵日記に



8月11日(土) 伊庭 謹節館前広場
今回で19回を迎え、かつての子ど
もたちもボランティア(35名)と
して企画、実施。

能登川青年団 「能登川BON!!おどり」



8月5日(日) 15～20時、能登川支所前、
約300人が参加。

第7回東近江市ドラゴンカヌー大会



7月22日(日)
能登川水車とカヌーランド
成績：市民の部
優勝 大中すいか
準優勝 垣見敬神会
第3位 新宮西Aチーム

能登川ゲートボール教室開催



美しい琵琶湖を守ろう 「びわ湖の日」一斉清掃



ゴミの回収



7月29日(日)～31日(火) やわらぎの郷公園
■主催：能登川ゲートボール連盟

NO. 33

7月1日(日)の「びわ湖の日」にちなんだ一斉清掃が、
7月2日(月)午前9時から能登川地区の琵琶湖岸周辺
で行われました。参加者は全体で約300人、集められ
たゴミは約1トン。

発行：能登川地区まちづくり協議会 発行日：平成24年9月20日
〒521-1292 東近江市駄光寺町262番地 東近江市能登川支所内
IP 電話 0505-802-2793 (平日午前中) FAX：0505-802-2793
E-mail：notomatikyo@e-omi.ne.jp
<http://members.e-omi.ne.jp/notomatikyo/>

日野地区運営協議会へ能登川地区まちづくり協議会の現状を説明

7月15日(日) 午前、日野地区運営協議会(滋賀県日野町)の25名が当まちづくり協議会の視察に訪れ、当まちづくり協議会から、現状と問題点を説明しました。

具体的内容は、能登川地区まちづくり協議会の組織運営について(特に、まちづくり協議会と自治会の関係について)、能登川地区まちづくり協議会の主な活動内容について、指定管理を受けた公共施設の運営状況について、などです。

来訪者25名の内訳は、日野地区運営協議会の構成母体である区長連絡協議会、公民館役職員、NPO法人、その他地区団体の代表の方々でした。

後日、日野地区運営協議会から、「非常に有益であった。」「今回伺った内容を、行政との懇談につなげたい。」との

話が出るなど、早速成果が出ている。」とお礼をいただきました。



質問をされる来訪者(能登川支所別館にて)



第48回 能登川地区市民運動会

【日時】平成24年10月7日(日)

8:30(開会式)~15:30

雨天中止(予備日なし)

*当日の開催有無の確認:

当日6:30以降に下記まで
お問い合わせください。

TEL 0748-24-1241/1242(市のテレホンサービス)

【会場】能登川スポーツセンターグラウンド

【主催】能登川地区体育協会

【お問い合わせ/事務局】能登川コミュニティセンター



能登川地区 第54回 文化祭

【テーマ】「ふれあいと文化の祭典」

【期 日】平成24年10月28日(日)~11月4日(日)

【会 場】能登川コミュニティセンター
能登川南小学校体育館

【主な催しスケジュール】

10月28日(日): 菊花展(~11月4日(日)まで)

11月2日(金): ダンスパーティの夕べ

11月3日(土): 将棋大会、歴史講話など

能登川地区青少年育成大会(講演会など)

11月4日(日): 囲碁大会、芸能発表会

【作品展示】

展示期間: 11月3日(土)~4日(日)

場 所: 能登川コミュニティセンター
能登川南小学校体育館

【主 催】能登川地区第54回文化祭実行委員会

【お問い合わせ/事務局】能登川コミュニティセンター



第20回 能登川ふれあいフェア

【日時】平成24年10月21日(日)

9:30~15:00 小雨決行

*当日の開催有無の確認: 当日6:30以降に
下記までお問い合わせください。

TEL 0748-24-1241/1242(市のテレホンサービス)

【会場】ふれあい運動公園(愛知川河川敷 栗見橋付近)

*能登川地区内では会場への無料送迎バスが
あります。

【内容】ステージショー

各種団体による展示・物産販売

リサイクルフリーマーケット(100区画)

ふわふわドーム など

【主催】能登川ふれあいフェア実行委員会

【お問い合わせ/事務局】能登川コミュニティセンター



第18回無垢な魅力能登川を歩くハイキング

仏のところにふれながら自然を満喫

平成24年11月3日(祝)

一般向

【コース】JR能登川駅→伊庭御殿跡→望湖神社→
安楽寺→能登川水車とカヌーランド→
能登川博物館→林中央公園→JR能登川駅

【受付・集合場所】

JR能登川駅改札口前(受付9:00~ 出発9:30)

【参加費】500円(ハイキングに参加ご希望の方は)
事前に申し込みが必要です。

*詳しくは自治会回覧をご覧ください。または、
東近江市商工会能登川支部にお問い合わせください。

【主催】東近江市商工会女性部能登川支部
いきいき事業研究会

TEL 0748-42-1158(平日9:00~17:00)

IP 0505-802-2559 FAX 0748-42-6335



栗見新田町自治会の「かまどベンチ」づくり

自主防災会議の役員会で「何かひとつでも新しい事を取り入れて防災を進めよう」と話しをしている中で、「かまどベンチ」を作っては、との発案がありました。これなら公園のベンチと防災時のかまどとして自治会で作る事ができます。

栗見新田町には2基必要ですが、今年なら、まち協と滋賀県(注)から各1基分の補助が受けられるという状況もあり、実施にこぎつけました。

夏休みに製作すれば自治会、老人クラブ、子ども会の合同作業として、大人と子ども達との交流もできる、と話が進み、無事完成しました。

秋のお披露目には、自主防災を兼ねた運動会でハイゼックス包装食での炊き出しを行う予定です。

(注) 滋賀県減災協働コミュニティ
滋賀モデル推進事業の助成



子どもと一緒にレンガ積み (H24.7.29)



完成したかまどベンチ

能登川南こどもの家



8月24日(金)、射的屋など、子どもたちの力で8店舗を出店し、楽しみました。

歴史点描 ⑫

市史編纂室だより

「保元の乱」と伊庭

平安時代末期の保元元年(1156)、後白河天皇と崇徳院を軸とした朝廷内の争いは、ついに「保元の乱」という合戦に発展しました。この戦の顛末を記した書物『保元物語』に、能登川地区の地名である「伊庭」が登場するのをご存知でしょうか。

保元の乱で、源義朝の父、為義は息子と別れ、崇徳院方について戦うことを決意します。その参戦を喜んだ崇徳院は為義に褒美を約束しますが、その中に「伊庭小庄」、つまり伊庭の地が含まれていました。

しかし、戦は崇徳院方が敗北し、

為義も殺されてしまいます。その後、伊庭の地がだれのものになったかは資料が残っておらず、残念ながらはっきりしません。

今年の大河ドラマでも描かれたこの戦に、能登川も意外な形でかかわっていました。それだけ、古くから注目を集める豊かな土地だったのでしょ



伊庭の田船

第7話

「老化予防」や「治療」の主役は誰？

50歳を過ぎたら、自分の体力・握力・脚力など注意深く観察する習慣をつけ、まず自分の「今の体力」をしっかりと見つけてください。

老化予防や治療の主役は自分自身です。「旅行に行きたい」「孫と遊びたい」など様々な希望をかなえ「豊かな老後の姿」を描くことを糧として、主体的に覚悟を決めて一生懸命に取り組む以外にありません。また、現実に身体的故障、例えば膝や腰が痛いということであれば、まずその治療に「必ず治すぞ」と決意し、努力して少しでも改善させましょう。

治療の手段はあくまでも手助けに過ぎません。それは体のしくみがネジなどで止まっている所は一つもなくて筋肉と骨のバランスで保たれているため、一時的に治療しても同じ暮らし方をしていれば元に戻るからです。

老化予防も自身が真剣にしない限り「予防」にはなりません。

「老化」は自然が作った「死」の準備ですから加速度的に進むと思われま

地域で行われているサロンなどがこの「老化予防」を担う場となることが望まれます。

NPO ほほえみでは「楽しく予防スリィA教室」を行っています。随時参加者を募集しています。

老いと向き合って生きる

「やすらぎの花公園」でとれた菜種を搾油して天ぷら油に

既報のとおり、昨秋「やすらぎの花公園」(場所は、愛知川河畔・八幡橋とJRの間)に種をまいた菜の花が、今春満開となりました。

この後、刈り取った菜種を、6月30日に能登川まち協で菜種油を搾油し、これで天ぷらを揚げて楽しみました。

(主催：滋賀県・能登川まち協)



右側は、刈り取った菜種の山。これをブルーシートの上に広げ、槌(つち)でたたいて種子を鞘(さや)から落とす。(能登川支所別館)



菜種の種子とゴミを唐箕(とうみ)でふるい分ける。



搾油機



搾油した菜種油で天ぷらをあげる。



やすらぎの花公園の取組状況をパネルで展示
(能登川支所1階玄関ホール市民ギャラリー。H24年7月～)



能登川病院の存続に向けて

だれしも、生まれ、育ち、生活している地域に愛着を持ち、他とはちがう感情をいだいて生きておられると思う。私もこの能登川にひと倍強く愛着をもって暮らしている。その、能登川が好むと好まざるとにかかわらず大きく変化しつつある。

形としては、能登川駅が改築され、西側が開かれ、多くの道路、建物ができ、大変明るく、便利になった。地域が活気に溢れ、人や車の往来もにぎわう。

反面、昔ながらの地域では、高齢化率が高まり、昼間はお年寄りのみが見受けられる集落も少なくない。子ども若者が優位の地と高齢者が優位の地とが交流しさまざまな面で調和を持つた暮らしを実現することが望まれる。

さて、病院はどうであろうか。人間は年齢を経るに従い病気を多く経験するが、子ども、若者として例外ではない。その拠りどころになる東近江市立能登川病院が、

多額の赤字によりいまの形での継続が危ぶまれている。入院棟の半分は人手不足のため閉鎖され、常勤の医師が少なくなり、非常勤の医師により多くの科の外来が運営されている。

かつて多くいた利用者はどこにいったしまったのであろうか。10年前には14名いた医師が現在は5名、5名の医師の中の2名は定年を越えて勤務をお願いして、何とか病院としての機能を維持している。

私たち、能登川に住まいる者は地域の自分たちの病院として能登川病院を守り、維持発展する方法を市民のみならずとも考え、動くことが必要ではないだろうか。

能登川地区まちづくり協議会も能登川まちづくり推進会議の各団体も能登川病院の維持発展のための活動を開始しております。

能登川地区まちづくり協議会会長

藤居 正博